

福島県内の絶滅危惧種のモニタリング報告会調査結果概略



調査結果の概要

調査員30名(主任調査員含む)
+協力者7名

調査対象種56種
集まった調査票:43種470個体群

うち,生育が確認されたもの:28種
絶滅が確認されたもの:0種
すべての個体群が未発見・未調査:15種
アキノハハコグサ,アンドンマコミ,イワヤシダ,
キノエビネ,キバナノアツモリソウ,ノカラマツ,
ヒメナエ,ヒメヒゴタイ,ヒメビシ,マツバニンジン
シマサイコ,ミヤマハナワラビ,ムカゴソウ,
ムラサキセンブリ,ロッカクイ

(下線は標本未確認)

集まらなかった種類13種類

集まらなかった種類の内訳

集まらなかった種類13種類

福島県で報告がないが,隣県に生育するため対象種にしたもの
イヌニガクサ,ヒシモドキ

福島県で報告が誤同定であることが判明したもの
エゾニガクサ,ミチノクナシ

福島県で報告があるが,過去3回のRDB/RL調査で報告がなく,標本も確認されていないもの
ヒキノカサ,ハルカラマツ,チョウセンニワフジ,
マメダオシ,ミスタカモジ,ヒメカンガレイ,
ミヤマモミジイチゴ,マメグミ,ゴマノハグサ

福島県に生育するか要再検討のもの

ミヤマハナワラビ:
1952年の『福島県植物誌』で,鈴木貞次郎標本を元に尾瀬から報告。
その後報告なし(『尾瀬ヶ原』『日本のシダ植物図鑑』を含む)。
鈴木貞次郎コレクションを含む東北大学植物園TUSに該当標本なし。

ムラサキセンブリ:
1956年の『福島県植物誌』で,猪苗代町,霊山,田村郡高瀬村,
西白河郡矢吹村,至中畑村,白河市外から報告。
その後報告なし。

その他ヒキノカサ,ハルカラマツ,チョウセンニワフジ,
マメダオシ,ミスタカモジ,ヒメカンガレイ,
ミヤマモミジイチゴ,マメグミ,ゴマノハグサ

➡ 東北大学植物園などで標本の確認

『福島県植物誌』(1987) 『レッドデータブックふくしま』の訂正



いわき市四倉産のノカラマツの報告の元となった標本
鈴木貞次郎 3210(TUS167264)

↓
花序や小葉柄の形態から,アキカラマツ

産地からいわき市四倉を削除。
白河市白坂が県内唯一の生息地に
→1954年以降未確認。絶滅?

同様に,アキノハハコグサ,マメグミなども産地の
削除

新しく見つかった植物



タンザワサカネラン

西郷村で発見
国内5カ所目,東北で初。

レッドデータブックの 카테고리

IUCNの 카테고리 (2001, ver. 3.1)

絶滅 EX, extinct **すでに絶滅**
 野生絶滅 EW, extinct in the wild 飼育・栽培化のみ存続

絶滅危惧 I 類 絶滅の危機に瀕している
 絶滅危惧 IA 類 CR, critically endangered
 ごく近い将来絶滅の危険性高い

絶滅危惧 IB 類 EN, endangered
 IAほどではないが近い将来絶滅の危険性高い

絶滅危惧 II 類 VU, vulnerable
 絶滅の危険が増大している

準絶滅危惧 NT, near threatened
 絶滅危惧に移行する可能性

情報不足 DD, data deficient 評価する情報がない

絶滅の危機
→
どう判断?

IUCNのA基準 (2001, ver. 3.1)

個体数の減少率 による判定

最近10年間または3世代のどちらか長い方の個体数の減少率が

絶滅危惧 IA 類, CR
 80% (減少の要因が止まっていて, 再発のおそれがない場合は90%) より大きい

絶滅危惧 IB 類, EN
 50%より大きい(同70%)

絶滅危惧 II 類, VU
 30%より大きい(同50%)

IUCNのC1基準 (2001, ver. 3.1)
 (C2基準は略)

個体数の少なさと減少率の大きさ による判定

絶滅危惧 IA 類, CR
 成熟個体数が250未満で, かつ3年または1世代の長い方の間に減少率が25%以上(10年で61.5%以上)

絶滅危惧 IB 類, EN
 成熟個体数が2,500未満で, かつ5年または2世代の長い方の間に減少率が20%以上(10年で36%以上)

絶滅危惧 II 類, VU
 成熟個体数が10,000未満で, かつ10年または3世代の長い方の間に減少率が10%以上

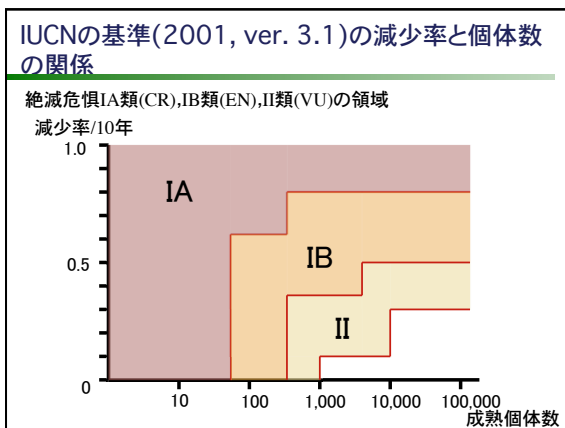
IUCNのD1基準 (2001, ver. 3.1)
 (D2は省略)

個体数の少なさ による判定

絶滅危惧 IA 類, CR
 成熟個体数が50未満 → 50/500則では短期間に絶滅する可能性が高い個体数

絶滅危惧 IB 類, EN
 成熟個体数が250未満

絶滅危惧 II 類, VU
 成熟個体数が1,000未満




レッドデータブックふくしま (RDBふくしま) の基準
 (環境庁1997レッドデータブックカテゴリー定義の定性的要件)

数値的に評価が可能となるデータが得られない種類に適用する基準
 →全生物群で統一し, しかも動物に合わせたため

絶滅危惧 I 類, CR+EN
 【確実な情報があるもの】
 既知すべての個体群で, 危機的水準にまで減少している, など
 【情報量が少ないもの】
 30-50年の生息記録以後確認情報がなく, その後信頼すべき調査が行われていないため, 絶滅したかどうかの判断が困難なもの。

絶滅危惧 II 類, VU
 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している

今回の調査のRDBふくしまへの適用




ノカラムツ
RDBふくしま: II類(環境省RL: 準絶滅危惧)

知られている個体群数: 1個体群
未調査: 0個体群
未発見: 1個体群
絶滅: 0個体群
生育確認: 0個体群0株
平均10年減少率: 不明

A基準: -
C基準: -
D基準: -
定性的基準: I類(30-50年確認情報なし)

⇒ 基準を変えなくても福島県ではI類

今回の調査のRDBふくしまへの適用



キセワタ
RDBふくしま: 希少(環境省RL: II類)

知られている個体群数: 17個体群
未調査: 2個体群
未発見: 7個体群
絶滅: 2個体群
生育確認: 3個体群29株
平均10年減少率: 89.7%(3個体群)
($1 - (0.005 * 2 + 0.3) / 3 = 0.897$)

A基準: IA類(減少率80%以上)
C基準: IA類(個体数250未満かつ減少率61.5%以上)
D基準: IA類(個体数50未満)
定性的基準: II類(大部分の個体群で大幅に減少)

⇒ 基準を変えるなら福島県でIA類
変えなくても福島県でII類

今回の調査のRDBふくしまへの適用

未掲載→掲載すべき
キキョウ, ムラサキ, オナモミ, ロッカクイ,
チチブホラゴケ, ハコネシケチンダ, イヌハギ

未評価, 希少, 準絶滅危惧→絶滅危惧にすべき
ヒメビシ, チョウジソウ, フナバラソウ, ツルカコソウ,
キセワタ, バアソブ, アキノハハコグサ, タカサゴソウ,
ヒメヒゴタイ, ミズトンボ, ムカゴソウ, サナギイチゴ

絶滅危惧II類→絶滅危惧I類にすべき
ノカラムツ, ミシマサイコ, スジヌマハリイ, イヌハギ